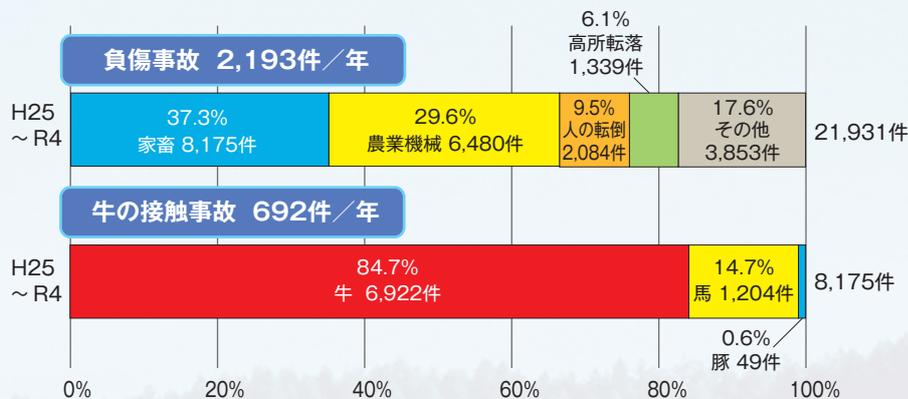


牛との接触による負傷事故に 気を付けよう!!

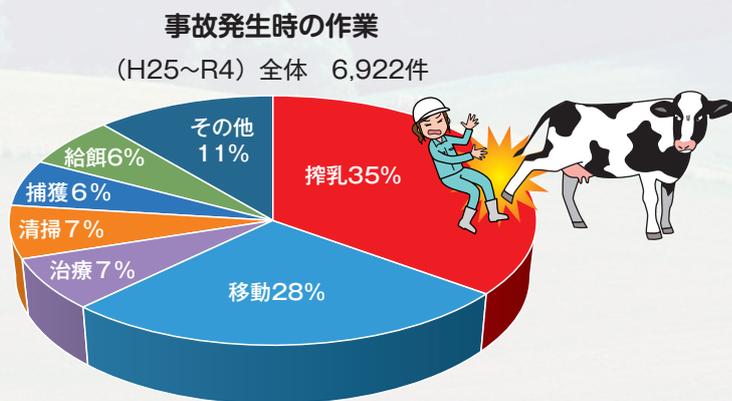
〈負傷事故の現状〉

- ◆ 農作業の負傷事故は、過去10年間に21,931件発生しています。
- ◆ そのうち家畜によるものは37.3% (8,175件)となっており、中でも牛との接触による事故が84.7% (6,922件) を占めています。



〈事故の発生と原因〉

- ◆ 事故の発生は、搾乳と移動作業中に多発しており、全体の63% (4,341件) に達しています。
- ◆ 主な事故の要因 (作業者の要因)
牛の行動に対する不注意、危険の認識不足
- ◆ 主な事故の要因 (牛の要因)
牛の性格、健康状態、ストレス、牛舎環境等



〈負傷は経営を圧迫する〉

- ◆ 牛による負傷事故は、蹴られる、踏まれる、挟まれる等の事故が多く発生しています。
- ◆ 事故が起きると、医療費や労務費等の出費がかさんで経営を圧迫します。
- ◆ また、治療期間の長期化は、家族労働への負担が大きく、作業の遅延等による農産物の品質低下や、経営規模の縮小・廃止を余儀なくされるなど、農業経営の存続に与える影響は非常に深刻です。
- ◆ 危険に気付き、危険を取り除いて、作業環境の改善と安全な行動で事故のリスクを減らしましょう。
- ◆ 生産環境や労働環境が整備されている農場は、農作業事故のリスクが低く、生産性も高い (牛舎内労働時間が短く、個体乳量が高い) と報告されています。安全で働きやすい現場作りを意識して良い経営につなげましょう。

〈安全対策のポイント〉

ステップ1 作業現場の危険源を取り除く (根本原因をなくす)

- 牛舎施設等の修繕
- 滑りやすい、段差、狭い、暗い場所の改善
- 5S (整理・整頓・清掃・清潔・躰) の励行
- 牛へのストレスの緩和

ステップ2 取り除けない危険源と人を隔てる

- 牛と人との導線を柵などで分ける
- 通路や待機場場にマンパスを設ける

ステップ3 安全な行動を遵守する (安全教育、手順書、注意喚起)

- 牛の死角 (真後ろ中心から±25°の範囲) から近づかない
- 近づくときは声をかけたり、牛体に触れて自分の存在を知らせる
- 大きな声や音を出さない
- 牛の近くでせわしく動き回らない
- 牛に痛みを与えない
- 牛を力づくで動かさない
- 逃げ場がない場所に立たない